

簡単お菓子の材料を  
子ども食堂で手渡し

長久手 愛知淑徳大生

愛知淑徳大の有志二人が、長久手市のリニモテラス公共施設で「長久手子ども食堂」ひるめしのための「ゆるゆる」を開き、お菓子の材料を配った。市の大学連携事業の一環で同大に委託された企画。事前に申し込んだ児童九人に、学生たちが考案した自宅で簡単に作れるスコーンの材料パックを配布した。

同大二年の江谷音乃さん（左）は「栄養面を考え野菜ジュースも使った。子どもたちで作れるよう、包丁を使わないレシピにした」と



工夫を話した。

九月にも開催したが、コロナ禍でご飯パックを郵送したのみになった。今月は子どもたちと手作りの輪投げや工作をして交流もした  
|| 写真、市提供。同大二年の小野純加さん（左）は「実際に会って渡せて『ありがとう』と言われてうれしかった」と話した。次回も同所で一月に予定している。

2021年11月20日（土）中日新聞 朝刊 14面

この記事は中日新聞社・長久手市役所の承諾を得て転載しています。